

子育て世代の居住地選択における居住地イメージの影響度に関する研究

～福岡都市圏を事例として～

九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科 松野尾仁美*

九州産業大学 工学部 住居・インテリア設計学科 中島寛子

本研究では、福岡都市圏に居住する子育て世代を対象として、調査対象地の居住地イメージ、及び居住地を選択する際に気にする居住地イメージを把握することを目的とする。また、居住地を選択する際に居住地イメージがどの程度影響しているかを把握することを目的とする。国勢調査の分析を踏まえ、福岡都市圏を5つのタイプに分類し、各タイプの地域に、居住地イメージのアンケート調査をおこなった。SD法を用いた評価から、居住地イメージが似た傾向の地域は、立地や周辺環境が似かよっており、これらが居住地イメージに影響していると考えられる。転居する際に居住地イメージをとても気にする、気にすると回答したのは全体の56.8%であり、居住地を選択する際に居住地のイメージがある程度影響していることが把握できた。また、特に気にする居住地イメージとして、[治安のよさ] [住みやすさ] [自然災害の有無] [便利な] が挙げられており、イメージを形成する要因と関係する可能性がある。各地域における満足度別の居住地イメージは、満足度に違いがあつても、SD法による評価グラフ形状はあまり変わらず、相似的なグラフ形状でポイントが遷移する傾向があつた。

Research on the influence level of the image of a residential area on the selection of
residing location by the parenting generation
-A case study of Fukuoka metropolitan area-

Yoshimi MATSUNOO*

Kyushu Sangyo University Faculty of Architecture and
Civil Engineering Department of Housing and Interior

Hiroko NAKASHIMA

Kyushu Sangyo University Faculty of Engineering Department of Housing and Interior Design

The subjects of this research study were child-raising families living in Fukuoka urban areas, and its goals were to gain an understanding of the impressions of residential areas in the study target regions, as well as to identify the elements in the impressions of residential areas which are of concern to people when selecting places of residence. Another objective of the study was to investigate the extent to which the impressions of residential areas have an effect on selections of places of residence. Based on the analysis performed in the national census, urban areas in Fukuoka were classified into 5 types, and questionnaire surveys were conducted asking respondents their impressions of the residential areas in each region type. Evaluations performed using the SD method showed that regions whose residential areas had trends toward similar impressions also had similar geographical conditions and surrounding environments, and it is believed that the impressions of the residential areas are affected by these aspects. 56.8% of all respondents indicated that they are “Very concerned” or “Concerned” about the impressions of residential areas when moving, indicating that the impressions of residential areas do have a certain effect on considerations made when selecting places of residence. Also, elements in the impressions of residential areas which were of particular concern included “level of public safety”, “livability”, “possibility for natural disasters”, and “convenience”, so it is possible that these elements are related to the factors which make up the impressions of given areas. The impressions of residential areas in each region classified by degree of satisfaction show that even if there are differences in satisfaction level, there are no significant variations in the shapes of evaluation graphs created using the SD method, with a tendency for evaluation points to only be shifted horizontally while having similar overall graph shapes.

子育て世代の居住地選択における居住地イメージの影響度に関する研究

～福岡都市圏を事例として～

九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科 松野尾仁美*

九州産業大学 工学部 住居・インテリア設計学科 中島寛子

1. 研究の背景と目的

近年、日本は急激な人口減少と少子高齢化が見込まれている。特に、首都圏への若者の流出などにより、更に衰退する都市や地域も発生していくことが予測される。都市や地域の持続性を担保するには、居住者に求められる居住環境を提供していく必要がある。そのためには人々の求める居住環境を把握した上で、今後の動向を予測し、これから居住地計画に活かしていかなければならない。

暮らしの満足度は「どんな家に住むか」だけでなく「どんな地域に住むか」によって違いがあると考えられる。また、居住者の属性や家族構成、ライフスタイルにより、教育への特化や老後の生活の充実など、求められるものに違いがあると考えられる。

現在、ユーザーが住まいを探す際には、不動産業者を媒介としており、そこで提供される情報以上のものを知ることは難しい。しかし、ユーザーにとっては間取りや立地以外に地域の雰囲気やイメージなど、数字では表現されない事柄も、知りたい情報ではないだろうか。特にその地域に馴染みのない者にとっては、イメージも住まい探しの際の重要なポイントになる可能性があると思われる。

前述の社会背景のように、人口減少社会の中で持続できない可能性のある地域もある中、福岡都市圏では人口増加が続き、住みたいまちとして全国でも知名度がある。現在の福岡都市圏には住みたいと思わせる要素が備わっており、その結果でないかと推察できる。人口動態からは、特に子育て世代に選ばれる傾向が見られる。そこで、本研究では、福岡都市圏に居住する子育て世代を対象とし、調査対象の居住地イメージ、及び居住地を選択する際に気にする居住地イメージを把握することを目的とする。また、居住地を選択する際に居住地イメージがどの程度影響しているかを把握することを目的とする。

2. 調査対象地域とアンケートの概要

2. 1 調査対象地域の選定

居住地イメージアンケートを実施する市町村を選定するため、福岡都市圏の 16 市区町村と福岡市の 7 つの区を加えた 23 地域について、2015 年度（住居は 2013 年度）国勢調査に基づき、人口、就業、住居などのデータ分析を行った。データ分析の結果から、福岡都市圏を性質の異なると考えられる要素を持つ 5 つに分類し、各類型の市町村区から、人口総数が最も多い、または、人口総数の増加率が最も高い市町村区である福岡市東区、福岡市博多区、大野城市、福津市、新宮町を調査対象地として選定した。

表1 福岡都市圏（23地域）の特徴と分類

	地域名称	特徴
類型①	福岡市東区、南区 西区、城南区、早良区	全て中庸な値を示した。
類型②	福岡市博多区、中央区	屋間人口が多く単独世帯が多い。
類型③	筑紫野市、春日市、 大野城市、太宰府市	第1次産業就業者率が低く、他県就業者率が高い。
類型④	宗像市、福津市、糸島市、宇美町、須惠町、久山町	第1次産業就業者率が高く、自市区町村就業率が高い。
類型⑤	古賀市、那珂川市、篠栗町、志免町、新宮町、粕屋町	核家族率、第1次産業就業者率が高く、自市区町村就業率が低い。

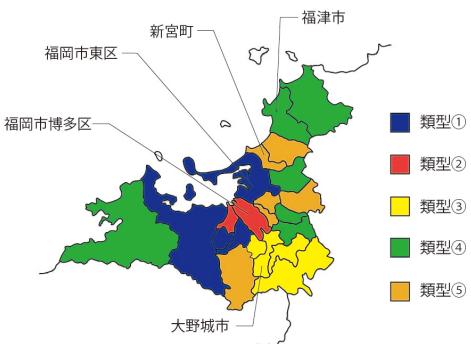


図1 福岡都市圏の類型（23地域）と調査対象市町村

2.2 アンケート調査概要

アンケート調査は、福岡都市圏の中から選定した5地域を対象に、2018年10月24日から12月18日の期間に、留置回収法で実施した。調査は調査対象地の保育園（福岡市東区、福岡市博多区、大野城市、福津市）、幼稚園（新宮町、福津市）、小学校（新宮町）に依頼し、そこに通う子どもがいる保護者、及び市役所（大野城市）で子どもがいる職員に実施した。調査項目は表2の通りである。配布数843部で、回収数454部のうち有効なものが425部（回収率50.4%）であった。

表2 アンケート調査項目の概要

調査項目	内容
個人属性	性別、年代、世帯構成
住まいと周辺環境	居住地名、住まいの形式、居住地域の周辺環境への満足度、居住地を選択する際に重視したこと、また重視したいこと、転居の意向、福岡都市圏内で住み替えたい地域
暮らし方の嗜好	現在の暮らし方と今後希望する暮らし方
居住地のイメージ	現在住んでいる地域のイメージ、今度住みたい地域のイメージ、居住地域のイメージを気にするか

3. 居住地イメージ及び居住地選択アンケート調査の分析

3.1 回答者属性の分析

回答者属性の年齢別及び男女別構成は表3、4の通りである。男女別構成比は男性12%、女性87%、未回答が1%であった。また、年齢の構成比は、20代7.5%、30代63.1%、40代26.4%、50代1.6%、60代以上は0%、未回答が1.4%であった。職業は表5のように、会社員29.6%、公務員11.1%、自営業4%、農業0.5%、パート26.8%、主婦23.1%、その他3.8%、未回答が1.2%であった。幼稚園、小学校に対してアンケートを行った福津市と新宮町では、主婦の割合がやや高くなかった。

表3 回答者の属性(性別)

	男性	女性	未回答	合計(人)
福岡市東区	1	19	0	20
福岡市博多区	7	61	0	68
大野城市	28	59	0	87
福津市	7	163	2	172
新宮町	7	71	0	78
合計(人)	50	373	2	425

表4 回答者の属性(年齢)

	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	未回答	合計(人)
福岡市東区	1	14	5	0	0	20
福岡市博多区	3	50	15	0	0	68
大野城市	8	55	23	1	0	87
福津市	17	118	35	0	2	172
新宮町	5	31	35	6	1	78
合計(人)	34	268	113	7	3	425

表5 回答者の属性(職業)

式)回答者の属性(職業)									
	会社員	公務員	自営業	農業	パート	主婦	その他	未回答	合計(人)
福岡市東区	10	2	1	0	2	0	5	0	20
福岡市博多区	39	2	4	0	17	0	4	2	68
大野城市	29	30	1	0	21	3	2	1	87
福津市	33	9	7	2	55	63	2	1	172
新宮町	15	4	4	0	19	32	3	1	78
合計(人)	126	47	17	2	114	98	16	5	425

3.2 住まいと周辺環境の分析

居住地域の周辺環境への満足度について、満足、やや満足、普通、やや不満、不満の5段階で回答してもらった。(表6、図2)

利便性、保健性では差があるが、安全性ではあまり差異がなかった。総合評価で最も低かった新宮町は、利便性、快適性の満足度が最も低かった。総合評価が最も高い大野城市は、快適性、安全性の満足度が最も高かった。

居住地域に当てはまるもの(複数回答可)については、表7に示すように、子育てがしやすい地域では、福岡市博多区が最も回答数が少なく、福津市が最も多かった。一方、働きやすい地域では、福岡市博多区が最も多く、新宮町が最も少なかった。

住みやすい地域での回答が多かったのは、大野城市、福津市であった。これは居住地域の周辺環境への満足度の総合評価と同じ結果となった。なお、表7の%は、各地域で選択された割合を示す。

3.3 居住地イメージの分析

居住地のイメージ評価には、反対の意味を持つ言葉を並べて評価するSD法を用いた。評価に用いた言葉は、参考文献^{3) 4)}から120語を抽出し、居住地イメージとしてふさわしいかを選定するアンケート調査を予備調査として行い、22組の44語を選定した。

現在居住している地域への対比イメージについては図3のとおりである。福岡市東区、福岡市博多区では、「便利な」「治安が悪い」のイメージがあり、福津市、新宮町では、「[のどかで落ち着きのある]」「[自然豊かな]」「[暖かな]」「[開放的でのびのびとした]」「[魅力ある]」「[親しみのある]」「[豊かな]」のイメージがあるという結果となった。

表6 居住地域の周辺環境への満足度

	福岡市東区	福岡市博多区	大野城市	福津市	新宮町
利便性	3.90	4.53	4.11	3.83	2.91
快適性	3.90	3.53	4.08	3.67	3.43
保健性	3.70	3.12	4.00	4.05	3.68
安全性	3.35	3.12	3.62	3.54	3.33
総合評価	3.90	3.66	4.09	3.97	3.54

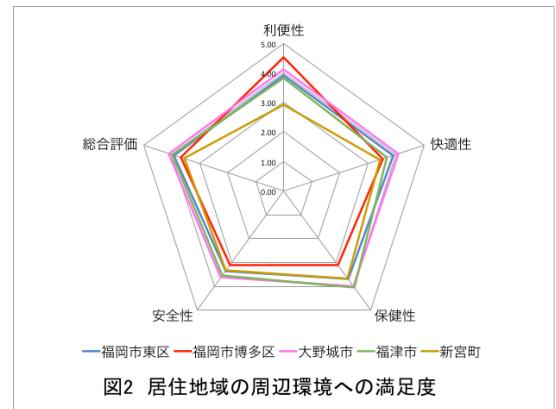


図2 居住地域の周辺環境への満足度

表7 居住地域に当てはまるもの

	福岡市東区	福岡市博多区	大野城市	福津市	新宮町
子育てがしやすい地域	11(55%)	28(41%)	46(53%)	98(57%)	43(55%)
高齢者にやさしい地域	1(5%)	5(7%)	3(3%)	20(12%)	8(10%)
働きやすい地域	5(25%)	24(35%)	18(21%)	11(6%)	4(5%)
住みやすい地域	3(45%)	37(54%)	59(68%)	116(67%)	41(53%)

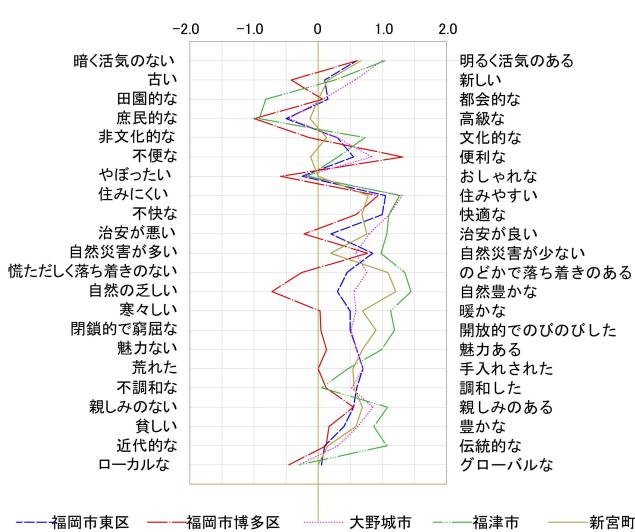


図3 現在の居住する地域の居住地イメージ

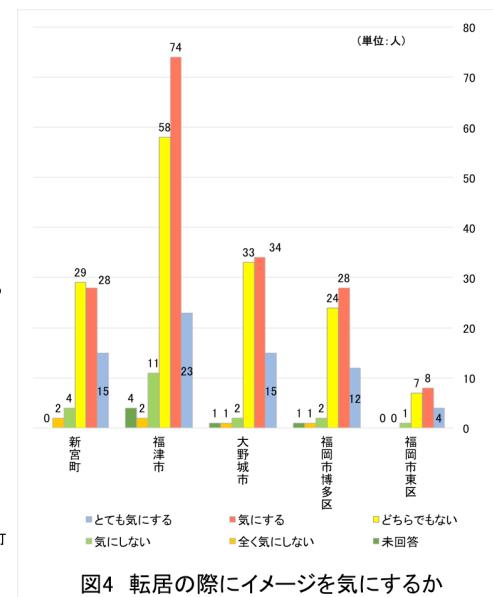


図4 転居の際にイメージを気にするか

転居する際に居住地域のイメージを気にするかについての質問に対し、図 4 に示すように、各地域で半数以上が「とても気になる」「気にする」と回答している。全体を集計すると、「とても気になる」「気にする」と回答した人が 56.8%となり、居住地を選択する際に居住地域のイメージがある程度影響していると考えられる。また、「とても気になる」「気にする」と回答した人に対し、「特に気にする居住地イメージ」を質問したところ、回答が最も多かった居住地イメージキーワードは、各地域共に[治安]であった。その他に、[住みやすい][自然災害][便利]等の居住地イメージキーワードが挙げられた。

(表 8)

表 8 特に気にする居住地イメージ

	福岡市東区	福岡市博多区	大野城市	福津市	新宮町
明るく活気のある/暗く活気のない	0	2	5	7	5
新しい/古い	1	2	2	0	1
都会的な/田園的な	0	0	0	2	0
高級な/庶民的な	0	0	0	0	1
文化的な/非文化的な	2	0	0	1	1
便利な/不便な	3	18	16	29	16
おしゃれな/やぼったい	1	1	0	1	0
住みやすい/住みにくい	6	12	20	47	18
快適な/不快な	2	3	7	9	6
治安が良い/治安が悪い	7	31	37	60	22
自然災害が少ない/自然災害が多い	1	9	16	17	10
のどかで落ち着きのある/慌ただしく落ち着きのない	2	3	4	20	6
自然豊かな/自然が乏しい	2	1	6	26	8
暖かな/寒々しい	0	1	3	7	2
開放的でのびのびした/閉鎖的で窮屈な	0	1	2	9	4
魅力ある/魅力ない	0	1	1	1	3
手入れされた/荒れた	2	4	2	2	2
調和した/不調和な	0	0	0	1	0
親しみのある/親しみのない	0	1	4	11	4
豊かな/貧しい	0	0	1	5	1
伝統的な/近代的な	0	0	0	1	2
グローバルな/ローカルな	0	0	1	0	1

福岡都市圏の中で住み替えを希望する地域について、上位 3 つを回答してもらい、1 位を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点で集計した。各地域共に、現在住んでいる市町村内での住み替えを希望する回答が多くたが、福津市、新宮町では、最もポイント数が高かったのは、福岡市東区であった。また、各地域共に、その地域の近くに位置する市町村への住み替え意向が多く見られた。福津市、新宮町では、住み替え先として糸島市のポイント数も高かった。(表 9)

表9 福岡都市圏で住み替えを希望する地域

	福岡市東区	福岡市博多区	大野城市	福津市	新宮町
福岡市東区	21	29	23	142	87
福岡市博多区	12	109	46	28	20
福岡市中央区	19	34	25	20	23
福岡市南区	6	29	37	25	4
福岡市西区	6	19	16	16	12
福岡市城南区	4	5	5	5	5
福岡市早良区	12	24	10	23	12
筑紫野市	0	8	16	9	2
春日市	1	56	64	17	1
大野城市	1	29	110	9	5
宗像市	0	2	1	121	18
大字府市	0	7	39	4	2
古賀市	1	0	2	69	13
福津市	3	7	1	113	24
糸島市	3	6	26	79	37
那珂川市	0	4	6	17	2
宇美町	0	1	14	7	0
篠栗町	0	2	0	10	2
志免町	3	0	11	7	2
須恵町	0	0	2	0	1
新宮町	6	4	4	104	86
久山町	0	0	0	3	11
粕屋町	3	1	2	6	10
未回答	19	6	62	196	89

その中で、比較するのにサンプル数が確保できた「福岡市東区への住み替えを希望し、かつ転居する際に居住地イメージを気にする人」と、「福岡市東区在住者」との居住地イメージを比較したところ、似かよった傾向が見られた。また、住み替えを希望する人の方が右側に遷移している。(図 5)

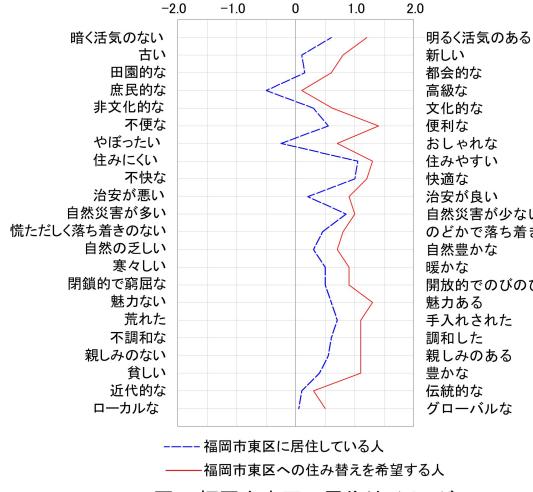


図5 福岡市東区の居住地イメージ

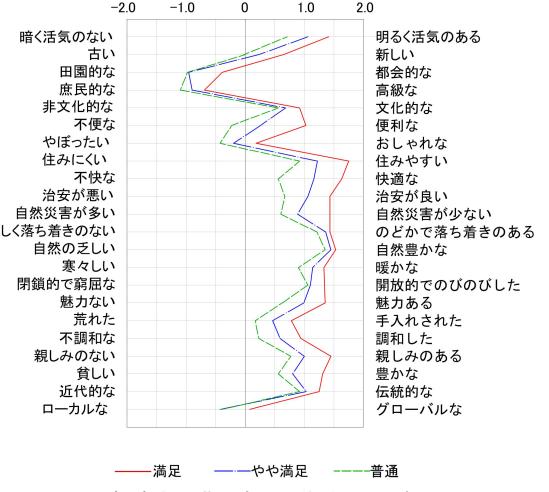


図6 福津市の満足度別居住地イメージ

表10 満足度別の居住地イメージ

	明るい	新しい	都会的な	高級な	文化的な	便利な	おしゃれな	住みやすい	快適な	治安が良い	自然災害	が少ない	のどこで	自然豊かな	暖かな	開放的	魅力ある	手入れされた	調和した	親しみのある	豊かな	伝統的な	ローカルな	グローバルな
福岡市東区	満足	1.2	0.6	0.2	0.2	0.6	0.6	0.2	1.4	1.4	0.6	0.8	0.4	0.4	0.8	0.8	1.2	1.0	0.8	0.6	0.8	0.0	0.0	
	やや満足	0.4	0.0	0.4	-1.0	0.4	0.9	-0.4	1.0	0.9	0.2	0.8	0.3	0.2	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.2	0.2	0.1	
	普通	0.4	0.0	-0.2	-0.4	-0.2	0.2	-0.4	1.0	1.0	-0.2	0.4	0.6	0.4	0.4	0.2	0.2	0.8	0.6	0.6	0.4	0.0	0.2	
	やや不満	0.0	-1.0	-1.0	0.0	0.0	-1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-1.0	
	不満	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし																
	満足	0.9	0.3	0.4	-0.5	0.1	1.8	-0.3	1.8	1.4	0.7	1.4	0.3	-0.2	0.5	0.8	1.1	0.6	0.7	1.3	0.8	0.5	0.1	
福岡市博多区	満足	0.9	-0.3	0.1	-1.0	-0.1	1.5	-0.5	1.2	0.9	-0.3	0.6	-0.3	-0.9	0.2	0.0	0.3	0.1	0.2	0.7	0.3	0.1	-0.4	
	やや満足	0.3	-0.7	0.1	-1.2	-0.1	1.0	-0.5	0.6	0.2	-0.3	0.6	-0.4	-0.8	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	-0.1	0.2	-0.1	-0.3	-0.6	
	普通	0.3	-1.3	-0.5	-1.5	-0.7	1.0	-1.8	-0.2	-0.5	-1.2	1.2	-0.3	-1.0	-1.0	-0.5	-1.3	-0.3	0.2	-0.5	0.5	-0.8		
	やや不満	-2.0	-2.0	0.0	-2.0	-2.0	1.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	0.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	0.0	-2.0	
	不満	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし																
	満足	1.5	0.8	0.3	-0.2	0.6	1.5	0.1	1.7	1.5	1.2	0.8	1.0	0.9	1.0	0.8	1.1	0.9	1.0	1.1	1.0	0.5	-0.1	
大野城市	やや満足	0.9	0.6	0.1	-0.6	0.3	0.9	-0.2	1.3	1.0	0.6	0.6	0.6	0.2	0.4	0.4	0.5	0.7	0.3	0.7	0.5	0.2	-0.3	
	普通	0.2	0.1	-0.3	-0.7	-0.2	-0.1	-0.7	0.7	0.6	0.5	0.2	0.7	0.6	0.3	0.3	0.1	0.4	0.1	0.7	0.3	0.3	-0.6	
	やや不満	0.5	0.5	-0.5	0.0	0.0	-0.5	-0.5	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不満	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし																
	満足	1.4	0.6	-0.4	-0.7	0.9	1.0	0.2	1.7	1.6	1.4	1.4	1.4	1.5	1.3	1.4	1.4	0.8	0.9	1.5	1.3	1.3	0.1	
	やや満足	1.1	0.2	-1.0	-0.9	0.7	0.3	-0.2	1.2	1.2	1.1	0.9	1.4	1.4	1.1	1.1	1.0	0.5	0.6	1.0	0.8	1.0	-0.4	
福津市	普通	0.7	0.0	-1.0	-1.1	0.6	-0.2	-0.4	0.9	0.6	0.7	0.6	1.2	1.4	0.9	1.1	0.6	0.2	0.2	0.8	0.6	0.9	-0.4	
	やや不満	0.0	-0.8	-2.0	-2.0	1.0	-1.3	-0.3	0.3	0.0	1.5	1.0	1.8	1.3	2.0	1.0	-0.3	1.3	0.0	1.3	-1.5			
	不満	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし	回答者なし																
	満足	1.2	0.2	-0.2	0.8	0.2	0.8	0.7	1.8	1.7	1.5	1.5	1.8	1.9	1.2	1.5	1.2	1.2	1.2	1.4	1.5	1.0	0.4	
	やや満足	0.9	0.4	-0.4	0.5	0.1	-0.5	0.9	1.2	1.2	1.2	0.5	1.6	1.7	1.0	1.4	1.2	1.0	0.8	1.0	1.0	0.2	0.3	
	普通	0.6	0.0	-0.9	-0.8	0.0	-0.3	-0.3	0.5	0.3	0.5	0.4	1.2	1.4	0.5	0.8	0.5	0.3	0.2	0.5	0.3	0.7	-0.5	
新宮町	やや不満	0.5	-0.3	-0.6	-0.4	0.8	-0.1	-0.3	0.6	0.9	0.9	0.6	1.5	1.5	1.1	1.5	1.0	0.5	0.9	1.0	1.0	1.0	-0.1	
	不満	0.0	-0.3	-2.0	-2.0	-0.7	-1.0	-2.0	-1.3	-1.3	-0.3	-0.7	0.3	0.3	0.0	-0.7	-0.7	-1.0	-1.0	-0.7	-1.0	-1.0	-1.3	

各地域の周辺環境への満足度（総合）別に、居住地イメージの平均をまとめたところ、いずれの地域も満足度が上がるにつれ、概ねポイントが高くなっている。(表 10) 地域によってポイント数に差があるものの、いずれも「満足」を選択した層が最もポイントが高い。その中でも、サンプル数が確保できた福津市については、図 6 の通りである。SD 法による評価グラフでは、満足度別でも、そのグラフ形状は似かよった傾向が見られる。他の地域についても同様の傾向が窺えた。また、満足度が高ければ、地域が異なっても、「住みやすい-住みにくい」では、「住みやすい」が選択されやすかった。

居住地イメージについては、満足度によって SD 法による評価グラフ形状はあまり変わらず、相似的なグラフ形状で右側に遷移する傾向が窺える。このことから、すでに形成された居住地イメージはある程度固定化され、そのイメージのままで、満足度が上がるにつれて、居住地イメージをポジティブに捉える傾向があるのではないかと推察できる。

4. まとめ

分析の結果、以下を把握することができた。

1) 調査対象地の居住地イメージ

- ①福津市と新宮町の居住地イメージは近似している傾向がみられた。居住地イメージが似た傾向の地域は、立地や周辺環境が似かよっており、これらが居住地イメージに影響していると考えられる。
- ②居住地イメージは、満足度に違いがあっても、SD法による評価グラフの形状はあまり変わらず、相似的なグラフ形状のまま遷移する傾向があった。何らかの要因で形成された居住地イメージが固定化され、かつ満足度が上がるにつれて、ポジティブに捉える傾向があるのではないかと推察できる。

2) 居住地を選択する際の居住地イメージの影響

- ①転居する際に居住地イメージをとても気にする、気にすると回答したのは全体の56.8%であり、居住地を選択する際に居住地のイメージがある程度影響していることが把握できた。
- ②「特に気にする居住地イメージ」として、[治安のよさ] [住みやすさ] [自然災害の有無] [便利な] 等のキーワードが挙げられており、イメージを形成する要因として関係する可能性がある。

5. 今後の課題

立地条件が似通った地域では、居住地イメージが似たような傾向になったことから、交通インフラ、自然環境、周辺施設を含めて、立地条件や周辺環境と居住地イメージの関係性を把握し、どういった立地がどのようなイメージをもたらやすいかを分析することで、求められる居住環境の要件を明らかにできると考える。また、居住者が求める居住ライフスタイルを把握し、居住地イメージとの関係性を分析する必要がある。分析データに基づいた地域の居住地イメージの情報を提示できれば、居住者が求める暮らし方にマッチした居住地を選択することが可能となると考えられる。

謝辞

アンケート調査にあたり、ご協力して頂いた保護者や職員の皆様にお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 植野和文：「ライフスタイルの志向に注目した居住環境評価の構造分析」1999年度第34回日本都市計画学会学術研究論文集 pp631-636
- 2) 榎恵利香, 吉武哲信, 出口近武士：「芸術家の居住地選択および居住環境評価に関する基礎調査」日本都市計画学会学術研究論文集 2003 38, pp79-84
- 3) 田村良一, 森田昌嗣, 地域ブランド構築のための地域イメージの構造に関する研究-熊本県阿蘇郡小国町をケーススタディとして-, デザイン学研究 BULLETIN OF JSSD Vol. 53 No. 4 2006 pp13-22
- 4) 住まいの図書館出版局『東京セレクション「花の巻」「水の巻』』, 1988年7月20日第一刷
- 5) 松野尾仁美, 中島寛子：「福岡都市圏における居住地イメージの居住地選択への影響度に関する研究」2019年3月, 九州産業大学建築都市工学部研究報告書(第1号), pp19-24

補注

なお、本稿は参考文献5)の調査報告書の調査データを用い、再構成したものである。